
ふくいミュージアム

1987. 10. 1

No. 12

福井県立博物館



鳥類様足跡化石

秋の特別展

山々への祈り —越前五山の神と仏—

昭和62年10月24日(土)~12月3日(木)

越前には、白山・日野山・越知山・文殊山・吉野岳という、山々への信仰がふるくからみられた名山があり、いつ頃からかこれらは“越前五山”と呼ばれならわされてきました。そして現在でもこれらの山々の周辺には、数多くの社寺が点在し、平安~鎌倉時代を中心とする古仏・神像が祀られています。

古来、山の高い嶺々には神々がやどり、人々の生活に恩恵をもたらし、時に災害をもたらすと信じられてきました。また、神道や仏教に結びついて、山は修行の道場ともなりました。

一方、わが国の信仰は古くから、神と仏を親しいもの、互いに助けあったりするものとみて、神仏と一緒に祀る「神仏習合」のかたちをとってきましたが、平安時代の終わり頃になると、わが国の神々は仏・菩薩が姿をかえたものであるとする、「本地垂迹」の説がとかれ、神々は仏教にとり入れられることになりました。

本展覧では、越前五山の山岳信仰の遺品を仏像を中心に展示するもので、五山それぞれの信仰の歴史とその特色を明らかにしていきます。そして、山の神々への信仰が、実は仏教への信仰と深いかわりをもつことを示し、その信仰を支えてきた先人の心を偲んでいただけたらと思います。

【主な展示品】

1. 白山
絹本着色 白山曼荼羅
(丸岡町 国神社)
木造 観音菩薩立像
(勝山市 観音堂)
 2. 日野山
木造 観音菩薩立像
(武生市 荒谷観音堂)
 3. 越知山
木造 女神像
(朝日町 八坂神社)
 4. 文殊山
木造 文殊菩薩坐像
(福井市 楞嚴寺)
 5. 吉野岳
木造 薬師如来坐像
(松岡町 湯谷神明神社)
- 他 約40点)



▲聖観音立像
(清水町白山神社)



◀女神像
(福井市、白山神社)



鬼神面▶
(今立町 個人)

冬の共催展

「越前ゆかりの名刀展 ～武将の象徴・社寺の秘蔵～」

博物館では、冬の展覧会として財団法人日本美術刀剣保存協会福井支部との共催で「越前ゆかりの名刀展～武将の象徴・社寺の秘蔵～」を開催します。

越前は北陸道の要衝として幾度も戦場と化した地であり、江戸時代初期には下坂鍛冶をはじめ優れた刀工が集まった場所でもあります。本展観は、戦国から江戸時代にかけての越前国の歩みを理解し、併せて大名の奉納等の理由で県内の社寺に伝来した名刀を紹介することによって、美術刀剣への正しい認識と、その伝統が織りなす武家社会への理解を深めていただくとするものです。

《展示資料》

- * 結城秀康をはじめとする越前ゆかりの武将の名刀
- * 越前松平家伝来の名刀
- * 県内社寺伝来の名刀
- * 越前の古刀期の名刀

《会 期》

昭和63年 2月7日(日)～3月20日(日)

(休館日 2/8, 11, 15, 22, 29, 3/7, 14)

《会 場》

福井県立博物館 特別展示室

《関連行事》

- 記念講演会「武将と名刀」(S.63.3.6)
東京国立博物館 刀剣室長 小笠原 信夫先生
- ミュージアムシアター(S.63.2.28)
「日本刀の美」、「鑑師と柄巻師」他

▶ 結城秀康画像 (武生市 龍泉寺)



刀(無銘 左文字), 付 黒漆打刀拵
[本多富正が徳川家康から拝領] (武生市 藤垣神社)

研究ノート

千嶋講について

はじめに

中世から存在した宗教的・経済的な共同団体組織として「講」と称されるものがあるが、その中で江戸時代に街道の発達とともに宿場の風俗肅正を目的とした講がある。この種の講には大坂に始まった「浪花講」、江戸の「東講」等各地に存在する。これらの講の中で、越前敦賀の「長岡屋清左衛門」が発起人となり、松前地方の商人が中心となって組織された「千嶋講」がある。ここでは、県内に残る千嶋講に関連する資料を紹介したい。

1. 千嶋講について

千嶋講に関する史料として、市立函館図書館が所蔵する「千嶋講宿帳」がある。これは「松前町史料編 第三巻」に全文および解題が掲載されている。これによると、千嶋講宿帳の出版年月日は嘉永3～4年ころに成立したもので、大きさは縦7cm、横16cmで137丁からなる。記載内容は街道の里数・定宿・運賃・番所および関所の有無と切手手続きの概要を始めとして、松前との交易・交通に関連の深い日本海沿岸の諸湊についての町の特徴や名所旧跡および問屋名・口銭・両替相場・船賃等にまでわたっている。序文によれば、浪花講が大坂で組織された際に、松前にも披露され、布屋久治郎が世話人となっていたが、大坂に請人がなく、講元が承知しないため、浪花講に参加できなかった。そこで松前地



千嶋講看板



千嶋講燈籠

方の連中が相談の上、越前敦賀の長岡屋清左衛門を発起人として独自に組織したのが、この松前千嶋講であると記されている。

2. 県内の資料

① 千嶋講看板

坂井郡金津町細呂木の上坂篤次氏所蔵の看板である。(写真1) 縦69.0cm、横34.9cmの樺の板で表面に「松前 千嶋講 世話方 京都 近江屋半兵衛 大阪 大和屋太良兵衛 江戸 苺豆屋茂右衛門 発起人 敦賀 長岡屋清左衛門」と墨書がある。ここ細呂木は北陸街道の宿駅として栄えた宿場町である。先述の千嶋講宿帳には細呂木の定宿は「中や仁右衛門」と記されている。上坂氏によると上坂家は代々「中屋」を名乗り、現在は酒店を経営しているが、以前は旅籠屋であったそうである。

世話方として3名が墨書されているが、千嶋講宿帳には京都三条大橋の定宿として「ふや丁五条上ル 近江や半兵衛」、大阪の定宿として「かじや町一丁目 大和や太良兵衛」、江戸の定宿として「㊦ 馬喰町 苺豆や茂右衛門 右者関八州 奥州路 松前三ヶ所千嶋講定宿 尤世話方ニ御座候間 講内御用向者此茂右衛門へ御申越可被下候 以上」と記されている。

② 千嶋講燈籠

千嶋講の発起人である長岡屋清左衛門の地「敦賀」の北陸の総鎮守「気比神宮」の正面にある赤い鳥居の右側に千嶋講が奉納した石燈籠が建っている。(写真2) 正面竿部に「獻燈」、裏面には「天保三壬辰年五月吉日」、正面基礎部に「千嶋講」、さらに基壇部には奉納者の名前が刻まれている。石材は御影石が使用されているが、風化が進んでおり一部判読不能の部分はあるが、拓本を採取したところ右のように刻銘されていることがわかった。

刻名されているのは、総勢49人で、松前・箱館・江差・東江州・京都・大阪・伏見・濃州岐阜・越前・若狭の各地にわたっている。これらはおそらく千嶋講の講元と考えられる。この中で千嶋講宿帳に記載されているのは京都の近江屋市兵衛と布屋八郎兵衛および城州伏見の中村兵助だけである。

3. 発起人 長岡屋清左衛門について

松前の者が中心となって組織された千嶋講であるが、発起人が敦賀の商人である点についてみてみたい。

～資料ニュース～

大発見！鳥の足跡化石

鳥類様足跡化石

福井県大野郡和泉村後野産

今年6月7日、名古屋市在住の千葉正巳氏ら3名によって和泉村の石徹白川河岸から鳥類様の足跡化石が発見され話題を集めています。この標本は三氏のご厚意により福井県立博物館に寄贈していただきました。(表紙写真)

足跡化石が発見された和泉村の崖(写真2)の地層は、手取層群石徹白亜層群伊月頁岩層と呼ばれる中生代白亜紀最前期(今から約1億3千万年前)の地層です。手取層群と呼ばれる地層は北陸一帯に分布し、ジュラ紀～白亜紀にかけて堆積した泥や砂などが固まってきた地層です(図1)。手取層群のほぼ上半部の地層は湖に堆積したもので、この湖を「古手取湖」と呼んでおり、この足跡化石も古手取湖の湖岸に鳥が残したものと考えられます。

さて、足跡化石を詳しく調べてみると、一つの足印の足印長は5cm程で、足印は27個残されていました。足跡の方向や単歩長などから数羽分の足跡と考えられます。この標本のような小型で3指の足跡は小型の恐竜のものとも考えられますが第II指(人指指)と第IV指(薬指)の開き具合が約120度と広いことなどから鳥類のものと考えています。

この発見された標本の意義は大きく、我国では今のところ最古の鳥の存在を示すもので、世界的にも中生代初め頃の鳥類化石は数例しか知られていません。今後、鳥の骨格や恐竜の化石の発見が期待されるところです。(東)

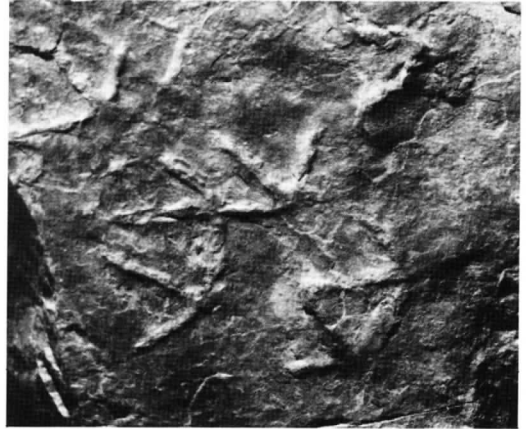


写真1 鳥類様足跡化石(表紙写真の部分)

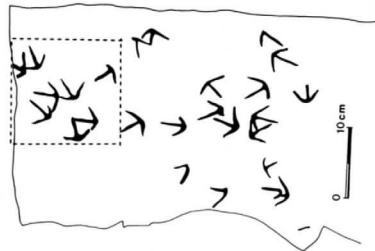


図2 鳥類様足跡化石のスケッチ(□内写真1)

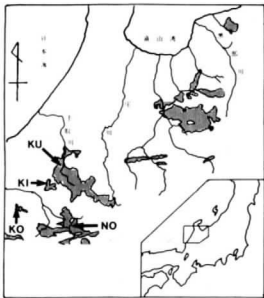


図1

手取層群の分布(たて線)と
脊椎動物化石産地

- NO: 鳥類足跡化石
和泉村後野
- KU: 恐竜歯・足跡化石・カメ石
石川県白峰村桑島
- KI: ワニ・カメ石
摩山町志谷
- KO: 手取竜(キノボリトカゲの仲間)
美山町小和清水



写真2 鳥類足跡化石の産地(福井県和泉村)

郷土の人物シリーズ

錦 耕 三

錦耕三は大阪の人で朝日新聞の記者をしていました。福井にいたのは昭和19年から4年ばかりのごく短い間だけでしたが、福井の民俗の研究史の上で注目すべき活動をしています。

若狭のさまざまな祭りの中でも全国的によく知られているのは、「王の舞」の行われる弥美神社、宇波西神社などの春の祭りです。戦前にはこれらの祭りもほとんど知られていませんでした。錦耕三は折口信夫に学び芸能史に関心をもっていましたが、昭

和20年の2月に「王の舞」の存在を知りました。戦争中のことでしたが、さっそくその年の5月に弥美神社の春祭りを調べに出かけています。そこで「王の舞」が貴重な神事芸能であることを知り、本格的な調査をするようになりました。大阪へ転勤になってからも戦後の厳しい情勢の中で年に数回必ず若狭をおとずれ、「王の舞」とそれを含む祭り、さらに祭りをを行う村落についての調査を続けました。

戦後、若狭でも古い祭りをやめようという動きがありました。今日も続いているのは彼が「王の舞」の価値を地元の人に説き、全国で紹介した賜物です。昭和36年に錦耕三は急逝しました。福井県を訪ねた民俗学者は少なくありませんが、地元に大きな影響を与えた人は彼をおいてほかにはありません。(坂本)

新作ビデオライブラリー

湿原の植物

— 敦賀市池の河内 —

福井県での数少ない湿原のなかで、もっとも代表的なものである敦賀市池の河内の湿原は、ハンノキ林にとりかこまれた3ヘクタールばかりの小さな湿原で、標高およそ300mの山間にひっそりと息づいています。

昭和の初め頃、京都大学の田代善太郎氏がこの湿原を調査して以来、郷土の植物研究家今井長太郎氏、広比岐氏、堀芳孝氏らが相ついでこの湿原に足を運びました。そしてこの湿原には植物地理学の上で貴重な種類が多数生育していることが確認されたのです。例えば池の河内湿原が日本での南西限となるヤナギトラノオ(サクラソウ科)やヤチスギラン(ヒカゲノカズラ科)、西限となるミズドクサ(トクサ科)をはじめ、県内でも稀産種であるヒメザゼンソウ、オニナルコスゲ、ミヤマウメモドキなど植物分布上注目すべき種類が豊富にみられるのです。またこの湿原の初夏を彩るカキツバタの大群落は県内屈指の規模のものといえるでしょう。現在この湿原は福井県の自然環境保全特別地域に指定されています。

ビデオは、1年がかりでこの湿原の植物たちを追い、四季それぞれの代表的な植物を紹介していきます。(若杉)

カラスを呼ぶお正月

— 常神半島・神子 —

常神半島の小漁村、三方町神子の正月は、カラスを呼ぶセンジキ行事から始まります。元日早朝、海辺の岩の上のお供物を神の鳥であるカラスが食べにやってくれば、その年の豊漁が約束されるのです。

この番組では、センジキをはじめ、弓射ちや綱引きなど、年の初めにあたり、村人の共通の願いである豊漁を祈り、また占うものとして、古くから厳格に守られ伝えられてきた神子の正月神事をあますところなく紹介しています。

しめ飾りをし、お鏡を供え、雑煮を祝う正月は、それぞれの家に年神を迎えるもので、家ごとの行事として行われています。しかし、この神子の正月神事は村全体の行事として行われるもので、36戸の戸主全員が参加する神事講が組織されています。順番に麻当、堂当という当番をつとめ、昔からのしきたりどりに、その年の神事の準備にあたらなければなりません。

大敷網という協同作業の漁業によって暮らしをたててきた神子の人々にとって、豊漁への祈りは、それぞれの家の幸福への祈りであったのです。

村人の見守るなか、カラスが飛来しモチをくわえて飛び去ると、思わずバンザイの声があがります。

(田中)

秋の特別展 10/24(土)~12/3(木)

山々への祈り

—越前五山の神と仏—

*講演会 11/1(日) PM 2:00~

「古密教彫像について」

奈良大学教授 井上 正 先生

共催展 2/7(日)~3/20(日)

越前ゆかりの名刀展

*講演会 3/6(日) PM 2:00~

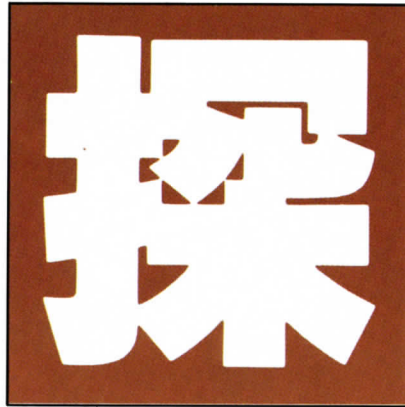
「武将と名刀」

東京国立博物館刀剣室長 小笠原信夫 先生



ミュージアムシアター

- 10/11(日) 火山列島の謎 穂高は生きている
 - 11/8(日) 仏教文化の源流をたずねて 一休、雪舟
 - 12/13(日) 縄文時代の人びと 登呂のむら、古墳のころ
 - 1/17(日) 能登のアエノコト 富山の正月行事
 - 2/28(日) 日本刀、日本刀の美 柄巻師と鍛師
 - 3/27(日) 坂本竜馬、福沢諭吉 勝海舟と西郷隆盛
- いずれもPM 2:00~



*野鳥観察会 10/4(日)

福良ヶ池周辺 AM 9:00~

自然観察指導員 榎本 二郎 先生

*学習会

- ・拓本をとろう! 10/18(日)
 - ・火をおこそう! 12/6(日)
 - ・しめ縄づくり 12/20(日)
 - ・とぼそう!竹とんぼ 1/10(日)
- いずれもPM 1:30~



*美術史教室 「神仏習合の美術」

- 11/7(土) 「神に仏を見た人」 武生市文化財調査委員 杉浦 茂 先生
- 11/14(土) 「奥越の山岳信仰」 大野市文化財保護委員 岩井 孝樹 先生
- 11/21(土) 「神と仏の出会い」 県立美術館学芸員 芝田 寿朗 先生
- 11/28(土) 「仏像と神像」 本館学芸員 長坂 一郎

*民俗教室 「人の一生」

- 2/20(土) 「産育」 本館学芸員 田中 敏博
 - 2/27(土) 「子供と若者」 本館学芸員 坂本 育男
 - 3/5(土) 「結婚」 本館学芸員 坂本 育男
 - 3/12(土) 「葬送」 福井県文化財審議会委員 小林 一男 先生
- いずれもPM 2:00~

秋・冬の行事

資料収集に御協力下さい

ふくいミュージアム No.12 1987.10.1

編集 福井県立博物館

発行 福井市大宮2丁目19-15

〒910

☎ 0776-22-4675(代)

印刷 出口印刷株式会社